

茨城工業高等専門学校		専攻科 産業技術システムデザイン工学専攻 一般		開講年度	平成28年度 (2016年度)											
学科到達目標																
科目区分	授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数								担当教員	履修上の区分		
					専1年				専2年							
					前		後		前		後					
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q									
一般	必修	技術者倫理	0001	学修単位	2			2							松尾 邦之	
一般	選択	グローバル特別研修	0002	履修単位	1	集中講義								小堀 繁治, 弥生 宗男, 安細 勉, 依田 英介, 原 嘉昭		
一般	必修	現代英語 I	0003	学修単位	2	2									本田 謙介, 大川 裕也	
一般	必修	現代英語 II	0004	学修単位	2			2							フィダ ルゴ ジーナ	
一般	選択	国際経済	0005	学修単位	2	2									箱山 健一	
一般	必修	現代英語 II	0006	学修単位	2			2							大川 裕也	
一般	必修	現代英語 II	0007	学修単位	2			2							本田 謙介	
一般	選択	グローバル特別研修	0008	履修単位	1					集中講義				原 嘉昭		
一般	選択	経済政策	0009	学修単位	2					2					箱山 健一	
一般	選択	現代歴史学	0010	学修単位	2					2					箱山 健一	
一般	選択	現代思想	0011	学修単位	2							2			田村 歩	

茨城工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	技術者倫理		
科目基礎情報							
科目番号	0001		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	専攻科 産業技術システムデザイン工学専攻 一般		対象学年	専1			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	「技術者倫理の世界」第3版 藤本温ほか (森北出版)						
担当教員	松尾 邦之						
到達目標							
1. 技術者の責任を正しく把握し、技術を中心とした、個人と社会あるいは組織との関わり合いを理解できる。 2. 事例学習を通じて、倫理に関わる様々な規範や問題解決に役立つ方法論を習得し活用できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	技術者の責任を正しく把握し、技術を中心とした、個人と社会あるいは組織との関わり合いを説明できる。		技術者の責任を正しく把握し、技術を中心とした個人と社会あるいは組織との関わり合いについて理解できる。		技術者の責任を正しく把握し、技術を中心とした個人と社会あるいは組織との関わり合いについて理解できない。		
評価項目2	事例学習を通じて、倫理に関わる様々な規範や問題解決に役立つ方法論を習得し活用できる。		事例学習を通じて、倫理に関わる様々な規範や問題解決に役立つ方法論を理解できる。		事例学習を通じて、倫理に関わる様々な規範や問題解決に役立つ方法論を理解出来ない。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標 (D) (ト)							
教育方法等							
概要	技術者は、高度な教育と経験を積んだ専門家として社会に対して特別な責任を負う。技術者倫理を正しく理解し、技術に関する問題の解決やリスク回避の能力を養う。一般企業における技術者および管理職経験を踏まえた授業展開を行う。						
授業の進め方・方法	講義テキストの内容を復習するとともに、講義に関係する課題等について予習しておくこと。倫理は、常に正しいあるいは絶対的な正解といった基準をもたない。とるべき倫理的な行動は、立場や環境、周辺条件によって変動するところがある。行動を倫理的に正しく適応させてゆく能力を得るためには、積極的に議論する態度で授業に臨むこと。						
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	導入	講義の概要、到達目標、参考書、授業の進め方			
		2週	技術者倫理の視点	技術者の責任と影響力、スペースシャトル事故、技術者倫理の複雑さ			
		3週	倫理と法	倫理と法の関係、六本木ヒルズ回転ドア事故、コンプライアンス、社会的要請、予防倫理			
		4週	公衆の安全、健康、福利-倫理規定-	プロフェッショナル、倫理規定、公衆、JCO臨界事故、公衆の「安全、健康、福利」とは			
		5週	事例研究①	課題は事前に配布し、事前検討の上で討議を実施する			
		6週	安全性とリスク	トンネル崩落事故、安全と安心、設計思想、リスク			
		7週	費用便益分析と製造物責任法	フォード・ピント事件、製造物責任法、消費生活用製品安全法			
		8週	倫理問題の特徴	ジレンマ、線引き問題、環境問題			
	4thQ	9週	事例研究②	課題は事前に配布し、事前検討の上で討議を実施する			
		10週	組織の問題	リコール隠し、コンプライアンス、CSR、トラブル隠し→原発事故、集団思考			
		11週	公益通報-内部告発-	内部告発、グリバイン・ゴールド、公益通報者保護法			
		12週	技術者をめざして	シティコープの事例、技術者の視点、公衆の視点、持続可能な社会、国際的な視点			
		13週	事例研究③	課題は事前に配布し、事前検討の上で討議を実施する			
		14週	技術者倫理に関係する最近の世界の流れ	SDGs、環境問題など			
		15週	(期末試験)				
		16週	総復習				
評価割合							
	試験	レポート	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	20	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	80	0	0	20	0	0	100

茨城工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	グローバル特別研修	
科目基礎情報						
科目番号	0002		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	実習		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	専攻科 産業技術システムデザイン工学専攻 一般	対象学年	専1			
開設期	集中		週時間数			
教科書/教材						
担当教員	小堀 繁治, 弥生 宗男, 安細 勉, 依田 英介, 原 嘉昭					
到達目標						
1. グローバルに関する課題、作業に積極的、自発的に取り組むことができる。 2. 課題の解決に必要なコミュニケーション能力をもちいて、自らの意見を説明することができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	グローバルに関する課題、作業に積極的、自発的に取り組むことができる。	グローバルに関する課題、作業に積極的、自発的に取り組むことができる。	グローバルに関する課題、作業に積極的、自発的に取り組むことができない。			
評価項目2	課題の解決に必要なコミュニケーション能力をもちいて、自らの意見を十分説明することができる。	課題の解決に必要なコミュニケーション能力をもちいて、自らの意見を説明することができる。	課題の解決に必要なコミュニケーション能力をもちいて、自らの意見を説明することができない。			
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育目標 (E) (チ) 学習・教育目標 (F) (リ)						
教育方法等						
概要	グローバルに関する研修を通して、国際的に活躍できる能力を持つ実践的技術者を育成する。					
授業の進め方・方法	提出された活動時間と活動記録等の報告書の内容及び時間数を審査し、内容に問題なく、ひとつあるいは複数のグローバル活動を累積した総活動時間が45時間以上の場合に合格とする。					
注意点	グローバル特別活動をする場合には、実施日の2週間前までに申請書を提出してください。また、「活動報告書」を活動終了後、一カ月以内に提出してください。この科目は、グローバルに関する研修を通して、豊かな教養と高い能力を身につけ、国際人として大きく成長することを期待して設けたものであるため、何事にも自発的・積極的に取り組み、多くのことを学んで欲しい。実習、研修課題に適切に対応できるように自ら何を学ぶべきか考えて、予習、復習に取り組むこと。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	以下の内容を満たす活動をグローバル特別活動とする。 1. 研修期間は休業中の45時間以上であることを原則とする。 2. 国際化の実態を理解し、グローバルな視野を育てる。 3. 学校の枠を超えた、学生間の交流活動を通して、協働および相互理解を実践する。 4. 活動を通じて外国語によるコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を高める。 5. 日本とは異なる文化や習慣を理解する。 6. 研修修了後、定められた期間までに指定された書類を提出すること。			
		2週				
		3週				
		4週				
		5週				
		6週				
		7週				
		8週				
	2ndQ	9週				
		10週				
		11週				
		12週				
		13週				
		14週				
		15週				
		16週				
後期	3rdQ	1週				
		2週				
		3週				
		4週				
		5週				
		6週				

		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

評価割合

	活動記録等の報告書						合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	100	0	0	0	0	0	100

茨城工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	現代英語 I	
科目基礎情報							
科目番号	0003		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	専攻科 産業技術システムデザイン工学専攻 一般		対象学年	専1			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	授業中にハンドアウトを配布する。						
担当教員	本田 謙介,大川 裕也						
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・アカデミックな英文を正しく読むことができる。 ・本文を要約したり意見文を書くことができる。 							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	英文がすべて正確に読める		英文が読み取れない箇所が少しだけある		英文が正確に読み取れる箇所が少ない		
評価項目2	与えられた英文の要約を正確に書くことができる		与えられた英文の要約をやや不十分だが書くことができる		与えられた英文の要約をほとんど書くことができない。		
評価項目3	与えられた英文に対して適切な意見文を書くことができる。		与えられた英文に対してやや不十分だが意見文を書くことができる。		与えられた英文に対して意見文を書くことができない。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標 (F) (リ)							
教育方法等							
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・アカデミックな英文を題材にして英文の正しい読み方を学ぶ。 ・本文を要約したり意見文を書くことによってプレゼンテーションの基礎を養う。 						
授業の進め方・方法	英語に限らず、人間言語を学ぶとはどういうことか、そもそも人間の言語とはどういうものか、この授業を受けることでそれらのことがよくわかるはず。授業では、さまざまなトピックのいわゆる科学記事を精読します。精読するとはどういうことかを丁寧に教えていきたいと思っています。コツコツと勉強することが好きで、知的好奇心の旺盛な学生を希望します。						
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	オリエンテーション	英語とは何か、人間の言語とは何か 本授業の目的			
		2週	英文記事の読解(1)	・ 英語についての知識 ・ 深く考えるためのヒント			
		3週	英文記事の読解(2)	・ 英語についての知識 ・ 深く考えるためのヒント			
		4週	英文記事の読解(3)	・ 英語についての知識 ・ 深く考えるためのヒント			
		5週	英文記事の読解(4)	・ 英語についての知識 ・ 深く考えるためのヒント			
		6週	英文記事の読解(5)	・ 英語についての知識 ・ 深く考えるためのヒント			
		7週	中間試験				
		8週	答案の返却と解説				
	2ndQ	9週	英文記事の読解(6)	・ 英語についての知識 ・ 深く考えるためのヒント			
		10週	英文記事の読解(7)	・ 英語についての知識 ・ 深く考えるためのヒント			
		11週	英文記事の読解(8)	・ 英語についての知識 ・ 深く考えるためのヒント			
		12週	英文記事の読解(9)	・ 英語についての知識 ・ 深く考えるためのヒント			
		13週	英文記事の読解(10)	・ 英語についての知識 ・ 深く考えるためのヒント			
		14週	総復習・質疑応答				
		15週	期末試験				
		16週	答案の返却と解説				
評価割合							
	試験	課題					合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
基礎的能力	40	40	0	0	0	0	80
専門的能力	10	0	0	0	0	0	10
分野横断的能力	10	0	0	0	0	0	10

茨城工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	現代英語Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0004		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	専攻科 一般	産業技術システムデザイン工学専攻		対象学年	専1
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	Students are required to bring a Japanese-English dictionary in addition to an A4 folder for handouts, homework, and class materials. Students should also have paper (blank or ruled) for taking down study notes. Textbook: Speaking of Speech by David Harrington, Charles LeBeau				
担当教員	フィダルゴ ジーナ				
到達目標					
This course introduces and develops skills required in English public speaking. The students will practice various aspects of preparing a great presentation. This includes using effective visuals, writing an organized essay with the use of transitions and signal words, in addition to displaying proper posture, effective gestures and output. Upon successful completion of the course, each student should be able to write a well-organized short essay and carry out an effective presentation.					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	The student give a smooth presentation without the use of help aids. The presentation includes proper visuals, effective evidence, and transitions.		The student can give a smooth presentation with limited use of help aids. The presentation includes minor mistakes in the effective use of visuals, lacks appropriate evidence, and transitions.		The student is unable to give a smooth despite the use of help aids. The presentation lacks or has serious mistakes with visuals, evidence, and transitions.
評価項目2	The student displays excellent eye contact, gestures, and voice inflection throughout the presentation.		The student sometimes makes eye contact, uses gestures, and uses appropriate voice inflection throughout the presentation.		The student does not use effective eye contact, gestures, or voice inflection throughout the presentation.
評価項目3	The student participates well in class and prepares presentations by the required deadline.		The student tries to participate and generally meets the required presentation deadline.		The student does not participate and fails to meet the required presentation deadline.
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育目標 (F) (U)					
教育方法等					
概要	Will practice the following elements of a presentation: (1) physical message (proper posture, eye contact, and gestures), (2) visual message (selecting effective visuals, analyzing visuals, and explaining visuals), (3) story message (preparing introduction, body, and conclusion, with the use of transitions and signal words)				
授業の進め方・方法	Partner discussion and role-play, group discussion and role-play, as well as individual writing activities.				
注意点	This class primarily focuses on discussion and practicing presentation skills. Success therefore depends on regular attendance and active participation. It is also recommended that students do the assigned homework in order to review skills learned in the classroom.				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	Welcome Class: student introductions, syllabus and course outline. Introduction to "physical message" - focus on posture	Learn proper posture prior to and during a presentation.	
		2週	"Physical Message" - focus on posture and eye contact. Learning to check if the audience is interested and understands the information.	Learn effective eye contact with the audience during a presentation.	
		3週	Short presentation 1, followed by lecture. "Physical Message" - focus on gestures part 1	Short presentation 1 should include proper posture and effective use of eye contact.	
		4週	"Physical Message" - focus on gestures part 2	Learn various gestures that can be employed in a presentation.	
		5週	Short presentation 2, followed by lecture. "Physical message" - focus on the use of voice inflection part 1	Short presentation 2 should include correct posture, eye contact, and use of gestures.	
		6週	"Physical Message" - focus on voice inflection part 2	Learn voice inflection techniques and when to employ them.	
		7週	Short presentation 3, followed by lecture. "Visual Message" - focus on various kinds of visuals and correct usage	Short presentation 3 should include proper posture, effective eye contact, gestures, and voice inflection.	
		8週	"Visual Message" - focus on selecting effective visuals, in addition to explaining visuals part 1	Understanding different visuals have different purpose. Preparing simple visuals that include all important information, and selecting the correct visual for your purpose.	
	4thQ	9週	"Visual Message" - focus on explaining visuals part 2	How to properly introduce a visual and explain its contents.	
		10週	Short presentation 4, followed by lecture. "Story Message" - focus on the introduction components of a presentation	Short presentation 4 should include proper posture, effective eye contact, gestures, voice inflection. In addition, visuals should be properly selected, utilized, and explained.	

	11週	"Story Message" – focus on the body of a presentation. Specifically, using transitions and signal words to improve flow.	Writing and employing effective signal words and transitions to connect ideas and points in the presentation.
	12週	"Story Message" – focus on writing a suitable conclusion concentrating on key information	How to properly conclude a presentation, reviewing the main points the audience should remember.
	13週	Long presentation 1	Long presentation 1 should be carried out with minimal usage of helping aids and employ the various elements learned in the course.
	14週	Feedback session regarding long presentation 1	Students should make recommend changes given in the feedback session. These include changes to the story, visuals, and physical message.
	15週	Long presentation 2	Long presentation 2 should be carried out smoothly, without the use of any aids. It should employ the various elements learned in the course.
	16週	Course review, student feedback, and grades.	Overall feeling of improvement in preparing a presentation and confidence when speaking in front of an audience.

評価割合

	Examination	Presentation	Mutual Evaluations between students	Behavior	Portfolio	Other	合計
総合評価割合	0	100	0	0	0	0	100
Basic Ability	0	30	0	0	0	0	30
Technical Ability	0	30	0	0	0	0	30
Interdisciplinary Ability	0	40	0	0	0	0	40

茨城工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	国際経済		
科目基礎情報							
科目番号	0005	科目区分	一般 / 選択				
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2				
開設学科	専攻科 産業技術システムデザイン工学専攻 一般	対象学年	専1				
開設期	前期	週時間数	2				
教科書/教材							
担当教員	箱山 健一						
到達目標							
エンジニアとして必要最低限の国際経済に関する基礎知識と国際感覚を習得する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1	資本主義類型論について正しく説明できる	資本主義類型論について正しく理解している	資本主義類型論について正しく理解していない				
評価項目2	グローバル化について正しく説明できる	グローバル化について正しく理解できている	グローバル化について正しく理解できていない				
評価項目3	現代のグローバル企業について正しく説明できる	現代のグローバル企業について正しく理解している	現代のグローバル企業について正しく理解していない				
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標 (C) (H) 学習・教育目標 (E) (チ)							
教育方法等							
概要	資本主義は、産業革命によって確立された近代固有の経済システムであり、各国の歴史的な蓄積条件の違いから、今日でも解消されない各国独特の型が生じた。この授業では、まず先進主要各国の経済の型の違いを発生史の視点から検討、次いで、現在の海外の主要なグローバル企業を紹介したのち、グローバル化時代の東アジア経済の課題を展望します。						
授業の進め方・方法	授業終了後にはノート等を見直し、よく復習しておくこと。						
注意点	JABEE認定のためには、「国際経済」または「経済政策」のどちらかを履修する必要があります。この授業は前期にのみ開講する半期終了科目です。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応			
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業							
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	ガイダンス				
		2週	資本主義社会の基本概念	産業革命 初期資本主義			
		3週	資本主義社会の国際比較 (1) イギリス	寄生地主 シティ			
		4週	資本主義社会の国際比較 (2) フランス	アトリエ工業			
		5週	資本主義社会の国際比較 (3) ドイツ	地帯構造論			
		6週	資本主義社会の国際比較 (4) アメリカ	フロンティア			
		7週	資本主義社会の国際比較 (5) 日本	地租改正 高度経済成長			
		8週	グローバル化 (1)	ブラザ合意 世界標準化			
	2ndQ	9週	グローバル化 (2)	地域経済圏の形成 (EUとNAFTA)			
		10週	グローバル化 (3)	東アジア経済圏の現状と課題			
		11週	海外のグローバル企業 (1)	鉄鋼・機械・自動車			
		12週	海外のグローバル企業 (2)	電機・原子力・通信・情報			
		13週	海外のグローバル企業 (3)	化学・製薬			
		14週	海外のグローバル企業 (4)	銀行・保険・サービス業			
		15週	(期末試験)				
		16週	総復習				
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

茨城工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	現代英語Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0006		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	専攻科 産業技術システムデザイン工学専攻 一般	対象学年	専1		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	指定しません (ハンドアウトを配布します)				
担当教員	大川 裕也				
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語で書かれた著書を読み、内容を要約できる。 ・ さまざまなタイプの英語を聞き、内容を理解できる。 ・ TOEICなどの英語資格検定試験で、一定の水準に至るほどの得点(級)を獲得できる。 					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	英文がすべて正確に読める	英文が読み取れない箇所が少しだけある	英文が正確に読み取れる箇所が少ない		
評価項目2	与えられた英文の要約を正確に書くことができる	与えられた英文の要約をやや不十分だが書くことができる	与えられた英文の要約をほとんど書くことができない。		
評価項目3	種々の英語資格検定試験を受験し、短期大学卒業程度以上の英語力を有することを証明できる。	種々の英語資格検定試験を受験し、短期大学卒業程度の英語力を有することを証明できる。	種々の英語資格検定試験を受験し、短期大学卒業程度の英語力を有することを証明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語で書かれた著書を精読し、英語の文章構造と日本語の文章構造の違いを学びます。 ・ さまざまなタイプの英語(ニュースやプレゼンテーションなど)を聞き、英語の音声の特徴を概観します。 ・ 英語に関する資格検定試験を受験するうえで必要なスキル(速読、情報の取捨選択など)を習得します。 				
授業の進め方・方法	<p>1 時限目は英文著書の精読と内容要約を行います。英文著書を精読することで、日本語の文章構造と英語の文章構造が一致していないことに気づくはずですが、この相違点を意識することは、日英語で論文やレポートを執筆する際に大いに役立ちます。2 時限目は、TOEICなどの英語資格検定試験の問題演習に取り組みます。さらに、英語のニュースやプレゼンテーションを聞きます。</p> <p>SNSやインターネット動画の台頭が目ざましい昨今、私たちは良い英語のみならず、悪い英語にも出くわす機会が圧倒的に増えました。「悪い英語でも自分の意思が他者に理解されれば問題ない」という安易な考えを許さず、良い英語と悪い英語を峻別することができる専攻科生を目指してください。</p>				
注意点	「辞書が搭載されている」などの理由で携帯電話やスマートフォンを許可なく授業中に使用する学生が散見されますが、私の授業では携帯電話やスマートフォンを必要としません。したがって、授業中における携帯電話及びスマートフォンの使用は認めません。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	・ オリエンテーション ・ 英文精読、内容の要約 ・ 英語資格試験問題の演習 ・ リスニング	・ オリエンテーション ・ 英文精読、内容の要約 ・ 英語資格試験問題の演習 ・ リスニング	
		2週	・ 英文精読、内容の要約 ・ 英語資格試験問題の演習 ・ リスニング	・ 英文精読、内容の要約 ・ 英語資格試験問題の演習 ・ リスニング	
		3週	・ 英文精読、内容の要約 ・ 英語資格試験問題の演習 ・ リスニング	・ 英文精読、内容の要約 ・ 英語資格試験問題の演習 ・ リスニング	
		4週	・ 英文精読、内容の要約 ・ 英語資格試験問題の演習 ・ リスニング	・ 英文精読、内容の要約 ・ 英語資格試験問題の演習 ・ リスニング	
		5週	・ 英文精読、内容の要約 ・ 英語資格試験問題の演習 ・ リスニング	・ 英文精読、内容の要約 ・ 英語資格試験問題の演習 ・ リスニング	
		6週	・ 英文精読、内容の要約 ・ 英語資格試験問題の演習 ・ リスニング	・ 英文精読、内容の要約 ・ 英語資格試験問題の演習 ・ リスニング	
		7週	後期中間確認テスト		
		8週	・ 後期中間確認テストの解説と講評 ・ 英文精読、内容の要約 ・ 英語資格試験問題の演習 ・ リスニング	・ 後期中間確認テストの解説と講評 ・ 英文精読、内容の要約 ・ 英語資格試験問題の演習 ・ リスニング	
	4thQ	9週	・ 英文精読、内容の要約 ・ 英語資格試験問題の演習 ・ リスニング	・ 英文精読、内容の要約 ・ 英語資格試験問題の演習 ・ リスニング	
		10週	・ 英文精読、内容の要約 ・ 英語資格試験問題の演習 ・ リスニング	・ 英文精読、内容の要約 ・ 英語資格試験問題の演習 ・ リスニング	
		11週	・ 英文精読、内容の要約 ・ 英語資格試験問題の演習 ・ リスニング	・ 英文精読、内容の要約 ・ 英語資格試験問題の演習 ・ リスニング	

		12週	・英文精読、内容の要約 ・英語資格試験問題の演習 ・リスニング	・英文精読、内容の要約 ・英語資格試験問題の演習 ・リスニング
		13週	・英文精読、内容の要約 ・英語資格試験問題の演習 ・リスニング	・英文精読、内容の要約 ・英語資格試験問題の演習 ・リスニング
		14週	・英文精読、内容の要約 ・英語資格試験問題の演習 ・リスニング	・英文精読、内容の要約 ・英語資格試験問題の演習 ・リスニング
		15週	後期末確認テスト	
		16週	・後期末確認テストの解説と講評 ・英文精読、内容の要約 ・英語資格試験問題の演習 ・リスニング	・後期末確認テストの解説と講評 ・英文精読、内容の要約 ・英語資格試験問題の演習 ・リスニング

評価割合

	試験	課題					合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
基礎的能力	60	40	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

茨城工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	現代英語Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	0007		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	専攻科 産業技術システムデザイン工学専攻 一般		対象学年	専1			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	授業中にハンドアウトを配布する。						
担当教員	本田 謙介						
到達目標							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	英文がすべて正確に読める		英文が読み取れない箇所が少しだけある		英文が正確に読み取れる箇所が少ない		
評価項目2	与えられた英文の要約を正確に書くことができる		与えられた英文の要約をやや不十分だが書くことができる		与えられた英文の要約をほとんど書くことができない。		
評価項目3	与えられた英文に対して適切な意見文を書くことができる。		与えられた英文に対してやや不十分だが意見文を書くことができる。		与えられた英文に対して意見文を書くことができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・アカデミックな英文を題材にして英文の正しい読み方を学ぶ。 ・本文を要約したり意見文を書くことによってプレゼンテーションの基礎を養う。 						
授業の進め方・方法	英語に限らず、人間言語を学ぶとはどういうことか、そもそも人間の言語とはどういうものか、この授業を受けることでそれらのことがよくわかるはず。授業では、さまざまなトピックのいわゆる科学記事を精読します。精読するとはどういうことかを丁寧に教えていきたいと思っています。コツコツと勉強することが好きで、知的好奇心の旺盛な学生を希望します。						
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション		英語とは何か、人間の言語とは何か 本授業の目的		
		2週	英文記事の読解(1)		・ 英語についての知識 ・ 深く考えるためのヒント		
		3週	英文記事の読解(2)		英語についての知識 ・ 深く考えるためのヒント		
		4週	英文記事の読解(3)		英語についての知識 ・ 深く考えるためのヒント		
		5週	英文記事の読解(4)		英語についての知識 ・ 深く考えるためのヒント		
		6週	英文記事の読解(5)		英語についての知識 ・ 深く考えるためのヒント		
		7週	中間試験				
		8週	答案の返却と解説				
	4thQ	9週	英文記事の読解(6)		英語についての知識 ・ 深く考えるためのヒント		
		10週	英文記事の読解(7)		英語についての知識 ・ 深く考えるためのヒント		
		11週	英文記事の読解(8)		英語についての知識 ・ 深く考えるためのヒント		
		12週	英文記事の読解(9)		英語についての知識 ・ 深く考えるためのヒント		
		13週	英文記事の読解(10)		英語についての知識 ・ 深く考えるためのヒント		
		14週	総復習・質疑応答				
		15週	期末試験				
		16週	答案の返却と解説				
評価割合							
	試験	課題					合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
基礎的能力	40	40	0	0	0	0	80
専門的能力	10	0	0	0	0	0	10
分野横断的能力	10	0	0	0	0	0	10

茨城工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	グローバル特別研修	
科目基礎情報						
科目番号	0008		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	実習		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	専攻科 産業技術システムデザイン工学専攻	一般	対象学年	専2		
開設期	集中		週時間数			
教科書/教材						
担当教員	原 嘉昭					
到達目標						
1. グローバルに関する課題、作業に積極的、自発的に取り組むことができる。 2. 課題の解決に必要なコミュニケーション能力をもちいて、自らの意見を説明することができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	グローバルに関する課題、作業に積極的、自発的に取り組むことが十分できる。		グローバルに関する課題、作業に積極的、自発的に取り組むことができる。		グローバルに関する課題、作業に積極的、自発的に取り組むことができない。	
評価項目2	課題の解決に必要なコミュニケーション能力をもちいて、自らの意見を十分説明することができる。		課題の解決に必要なコミュニケーション能力をもちいて、自らの意見を説明することができる。		課題の解決に必要なコミュニケーション能力をもちいて、自らの意見を説明することができない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育目標 (E) (チ) 学習・教育目標 (F) (リ)						
教育方法等						
概要	グローバルに関する研修を通して、国際的に活躍できる能力を持つ実践的技術者を育成する。					
授業の進め方・方法	提出された活動時間と活動記録等の報告書の内容及び時間数を審査し、内容に問題なく、ひとつあるいは複数のグローバル活動を累積した総活動時間が45時間以上の場合に合格とする。					
注意点	グローバル特別活動をする場合には、実施日の2週間前までに申請書を提出してください。また、「活動報告書」を活動終了後、一カ月以内に提出してください。この科目は、グローバルに関する研修を通して、豊かな教養と高い能力を身につけ、国際人として大きく成長することを期待して設けたものであるため、何事にも自発的・積極的に取り組み、多くのことを学んで欲しい。実習、研修課題に適切に対応できるように自ら何を学ぶべきか考えて、予習、復習に取り組むこと。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	以下の内容を満たす活動をグローバル特別活動とする。 1. 研修期間は休業中の45時間以上であることを原則とする。 2. 国際化の実態を理解し、グローバルな視野を育てる。 3. 学校の枠を超えた、学生間の交流活動を通して、協働および相互理解を実践する。 4. 活動を通じて外国語によるコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を高める。 5. 日本とは異なる文化や習慣を理解する。 6. 研修修了後、定められた期間までに指定された書類を提出すること。			
		2週				
		3週				
		4週				
		5週				
		6週				
		7週				
		8週				
	2ndQ	9週				
		10週				
		11週				
		12週				
		13週				
		14週				
		15週				
		16週				
後期	3rdQ	1週				
		2週				
		3週				
		4週				
		5週				
		6週				

		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

評価割合

	活動記録等の報告書						合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	100	0	0	0	0	0	100

茨城工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	経済政策		
科目基礎情報							
科目番号	0009		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	専攻科 産業技術システムデザイン工学専攻	対象学年	専2				
開設期	前期	週時間数	2				
教科書/教材	There is no required textbook for this course.						
担当教員	箱山 健一						
到達目標							
The course objective is to help students acquire basic knowledge about economic policy, which is indispensable for engineers.							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
knowledge and understanding	The student knows and understands each topic in depth, being able to give an accurate explanation.	The student knows and understands each topic, being able to give a simple explanation.	The student doesn't know and understand each topic, being unable to give any explanation.				
Presentation	issue is stated clearly and developed / ample detail and evidence is provided / organization of material is logical and coherent / lots of questions are asked and answered	issue is clearly stated / evidence is adequate / organization of material is simple / some questions are asked and answered	issue is not clearly stated / evidence is inadequate / organization of material is incoherent / few questions are asked and answered				
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標 (C) (H) 学習・教育目標 (E) (チ)							
教育方法等							
概要	The course is designed to study Japanese economy and economic policies in general. You will not only listen to the lectures, but also read newspapers or economic data, and do some assignments such as presentations or business analyses.						
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> It is important to understand that economic affairs have a direct influence on your life in present and future. To prepare for and review each lecture, you need to check the following: <ul style="list-style-type: none"> economic pages of daily newspapers books, papers or websites introduced in class The first half of each class will be a lecture given in English, and the second half devoted to assignments, in which the main language will be Japanese. The lectures will be given in a normal classroom style, but if the number of registered students is small, it may be changed to a seminar style class. 						
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応			
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業							
授業計画							
前期	1stQ	週	授業内容	週ごとの到達目標			
		1週	Introduction	What is ECONOMY?			
		2週	Business Fluctuation (1)	Business Cycle			
		3週	Business Fluctuation (2)	Economic Indicator			
		4週	Economic Growth (1)	Post-war Japanese Economic Growth (1)			
		5週	Economic Growth (2)	Post-war Japanese Economic Growth (2)			
		6週	Economic Growth (3)	Meaning of Economic Growth			
		7週	Mid-term Exam				
	8週	Mid-term Exam Review					
	2ndQ	9週	Fiscal Policy (1)	Fiscal Situation in Japan			
		10週	Fiscal Policy (2)	Tax Reform			
		11週	Fiscal Policy (3)	Social Security System			
		12週	Monetary Policy (1)	Financial Institutions			
		13週	Monetary Policy (2)	Financial Market			
		14週	Monetary Policy (3)	BOJ's Monetary Policy			
		15週	Final Exam				
16週		Final Exam Review					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	課題	合計
総合評価割合	70	20	0	0	0	10	100
基礎的能力	70	20	0	0	0	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

茨城工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	現代歴史学		
科目基礎情報							
科目番号	0010		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	専攻科 産業技術システムデザイン工学専攻 一般		対象学年	専2			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	教科書は使用しない。						
担当教員	箱山 健一						
到達目標							
予定のテーマの歴史の基本概念について、正しく理解できるのみならず、正しく説明できる能力の習得をめざす。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	歴史の基本概念について正しく説明できる。		歴史の基本概念について正しく理解できる。		歴史の基本概念について正しく理解できない。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標 (E) (チ)							
教育方法等							
概要	いくつかのテーマを示し、そのテーマについての世界の歴史について学ぶ。						
授業の進め方・方法	授業終了後にはノート等を見直し、よく復習しておくこと。						
注意点	「現代歴史学」または「現代思想」のどちらかを履修する必要があります。 この授業は前期にのみ開講する半期終了科目です。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	疾病の世界史	コロンブス交換やスペイン風邪が世界史に与えた影響について学ぶ。			
		2週	疾病の世界史	黒死病が中世後期のヨーロッパ社会へ与えた影響について学ぶ。			
		3週	社会保障の世界史	近世イギリスの救貧行政について学ぶ。			
		4週	社会保障の世界史	近代的な社会保障制度の登場と発達について学ぶ。			
		5週	租税の世界史	近世における租税国家の出現について学ぶ。			
		6週	租税の世界史	課税同意権の発達について学ぶ。			
		7週	建築の世界史	バシリカ様式、ビザンチン様式について学ぶ。			
		8週	建築の世界史	ロマネスク様式、ゴシック様式について学ぶ。			
	2ndQ	9週	建築の世界史	バロック様式、ロココ様式について学ぶ。			
		10週	建築の世界史	新古典様式、モダニズム建築について学ぶ。			
		11週	美術の世界史	印象派以前の美術様式について学ぶ。			
		12週	美術の世界史	印象派以後の美術様式について学ぶ。			
		13週	音楽の世界史	音楽様式と楽器の発達について学ぶ。			
		14週	音楽の世界史	音楽様式と楽器の発達について学ぶ。			
		15週	(期末試験)				
		16週	(答案の返却と解説)				
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

茨城工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	現代思想
科目基礎情報					
科目番号	0011		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	専攻科 産業技術システムデザイン工学専攻	一般	対象学年	専2	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	適宜プリントを配布する。				
担当教員	田村 歩				
到達目標					
現代における哲学的・倫理的な諸問題を検討することで、ものごとを多角的に検討する能力を涵養する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	倫理・環境・技術などに関して現代社会において問題たりうところを正しく理解し、説明することができる。	倫理・環境・技術などに関して現代社会において問題たりうところを正しく理解することができる。	倫理・環境・技術などに関して現代社会において問題たりうところを正しく理解することができない。		
評価項目2	一つの事गरらについて、自力で、複数の観点から検討することができる。	一つの事गरらについて、自らの見解と他者の見解を比較・検討することができる。	一つの事गरらについて、固定された見解しかもちえない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育目標 (E) (チ)					
教育方法等					
概要	現代における哲学的・倫理的な諸問題を検討することで、ものごとを多角的に検討する能力を涵養する。具体的には、科学・技術・医療・経営・環境に関する実際的な諸問題を理解し、それらについての説得的で重層的な議論を行っていく。				
授業の進め方・方法	本授業は、基本的には講義形式で行われる。受講の際には、言及される事गरらについての一問一答的な暗記に終始するのではなく、一つの哲学的な見解が提示されるに至るまでの過程を重視してもらいたい。 ※受講生の関心や授業の進捗状況等によって授業内容に変更の生じる可能性があります。				
注意点	既存の知識や常識、他者の見解に無批判に追従しないこと。自分の見解に固執して他者の見解を根拠なく排斥しないこと。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	現代思想に入る前の入門として、古代ギリシア哲学から近世哲学までの哲学史を概観する。(これを欠けば、「現代」思想を理解することは不可能である。)	
		2週	哲学の歴史(1): 哲学と学問	同上。	
		3週	哲学の歴史(2): 哲学と宗教	同上。	
		4週	哲学の歴史(3): 哲学とルネサンス/哲学と近代科学	同上。	
		5週	文献講読(デカルト①)	近代以降の哲学・科学を方向づけたデカルト(17th)の自我論について討議する。	
		6週	文献講読(デカルト②)	同上。	
		7週	文献講読(ニーチェ①)	西洋の伝統であったキリスト教道徳に反旗を翻した哲学者ニーチェの倫理思想について討議する。	
		8週	文献講読(ニーチェ②)	同上。	
	4thQ	9週	文献講読(脳はいかに意識をつくるのか①)	ノルトフ『脳はいかに意識をつくるのか』を読み、心の哲学(意識や精神について科学的に分析する)について討議する。	
		10週	文献講読(脳はいかに意識をつくるのか①)	同上。	
		11週	文献講読(ヴィトゲンシュタイン)	論理実証主義について討議する。	
		12週	文献講読(死とは何か①)	ケーガン『「死」とは何か』を読み、死について討議する。	
		13週	文献講読(死とは何か②)	同上。	
		14週	文献講読(死とは何か③)	同上。	
		15週	(期末試験)		
		16週	答案の返却および解説		
評価割合					
		試験	その他	合計	
総合評価割合		80	20	100	
基礎的能力		80	0	80	
基礎的能力		0	20	20	